

## 関西支部勉強会レポート

### 第9回関西支部勉強会

#### University Partnerships in Support of Educational Reforms in the Museum Field: The University of British Columbia's New Master of Museum Education (MMEd) Program

日時 2011年7月28日(木) 18:00~20:00

場所 京都大学 吉田泉殿

ゲスト Prof. David Anderson

Professor and Director of Master of Museum Education (MMEd) program within the Department of Curriculum and Pedagogy, University of British Columbia (UBC), Canada

(<http://edcp.educ.ubc.ca/faculty/david-anderson>)

人数 9名

人数こそ少なかったけれど、いろいろなところからの参加者が集まって、今日も楽しい時間を過ごすことができました。

#### 1. Davidさんの自己紹介

オーストラリア出身。

10年程前から、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)。Informalな(つまり、教室の外の) LearningやEducationに興味。

#### 2. バンクーバーとUBCの紹介

とてもきれいな街。

人口の50%以上が、アジアから来た人々。

そんなこともあって、UBCはとてもグローバル。留学生が多い。

そして、アジア・パシフィックとの連携に力を注いでいる。

#### 3. 学びの場としての博物館

生涯のうち“教室”で過ごすのは、ほんの一部の期間。

私たちが今持っているいろいろな知識、その多くは、“教室”以外のさまざまなところ身につけてきたはず。

## 関西支部勉強会レポート

「Informal な場で、どのように学んでいるの？」

「博物館で何を得ているの？」

知りたいことはこれ。

『教室”の中で、どう学ぶか』に関しては多くの研究／知見がある。

⇨ Informal Learning の研究／知見はまだまだ少ない。

\*ここでの Learning は、“お勉強”だけではなくて、もっと広い意味。

### 4. 博物館教育学の需要

おもに、North America では、博物館の Educator は、教師出身の人が多い。

⇨ 博物館の Education って、Formal な教育を“崩す”だけではないはず。

博物館学の良いコースを持っている大学は多い（University of Leicester、University of Toronto、The George Washington University など）。

標本の管理、保存、展示に関して学ぶというコースが中心。

Education に特化したコースは無かった。

これからは、多様な Museum での Education が重要になるはず。

（中国では、2010 に新たに 3,000 館もの Museum がオープンしたらしい・・・）

日本では？

大学で学芸員の資格はとれる。学芸員の資格の見直しが進んでいる。

大学院で博物館学を用意している大学はとっても少ない。

博物館学の“若返り”も必要。

## 関西支部勉強会レポート

### 5. UBC の新コースの紹介

UBC で、博物館教育に特化した修士課程のコースを準備中。

2007 年から準備を始め、2010 年には試行。

“連携”を重要視。

アジア諸国の大学とパートナーシップを結んで開講。

アジアからの留学生に、「西欧の文脈を押し付けない」工夫がされている。

→40%は母国で学び、残りは UBC で学ぶ。

いろいろなバックグラウンド（サイエンス系、アート系、歴史系などなど）の人が一緒に学ぶ。

共通の科目／実習と専門の科目／実習がある。

互いの文脈／知見を交換しあえるコースになるはず。

### 6. その他色々出た話

日本の博物館事情はどうだい？

お土産って結構重要！

→見るたびに何度も思い出す。その効果は大きい。

来館後に Web サイトを訪問する、というのも効果的。

中国の発展、すごっ！

科学コミュニケーション研究会 関西支部有志  
第9回勉強会・運営担当 加納 圭・水町 衣里（京都大学）